

2024年4月10日(水)第二水曜祈祷会

出エジプト記8章1～15節

「ただひとりの神、主を知るために」

【昨日の振り返り】『始まった主のしるし』出エジプト記7章

【観察と黙想】 * 第二の災禍

1. 第二の災禍の警告(8章1～4節)

①神はなぜイスラエルの民をエジプトの苦役から救われるのですか。

②蛙の大量発生はなぜ主のみわざなのですか。

→

③神が第二の災禍で「蛙」(多産の神の象徴)を用いたことにはどんな意味がありますか。

→

2. 蛙の大量発生が始まる(8章5～8節)

①アロンが杖をエジプトの水の上に伸ばすと、どうなりましたか。

→

②エジプトの呪法師たちも同じような秘術を使いましたが、何ができなかったのですか。

→

③耐えられなくなったファラオはモーセとアロンを呼び寄せて、何を言いましたか。

→

3. モーセのことばどおりに(8章9～15節)

①モーセが自分の祈る日をファラオに指定させたのはなぜですか。

→

②モーセはファラオにした約束のために、どのような思いで祈りましたか。

→

③ファラオは一息つけると思うとどうなりましたか。

→

【適用と分かち合い】

①モーセとアロンはどうしてファラオのところに行く決心ができたのですか。

②ファラオはどうして心を頑なにしたのですか。「主が言われたとおりであった」とは？

③「主がモーセのことばどおりにされた」ということから、何を教えられますか。

『『それなのに、あなたがたは、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか。』と聖なる方は言われる。』

イザヤ40:25